

C-16 服飾デザインにおける機能主義と表現—1920年代を中心として—
実践女子大家政 銀島 泉子

目的 1920年代には単純で着やすいなどのような機能性を強調する衣服形態が創られたのは衆知のとくだが、他面、装飾芸術の地フランスではまた装飾的欲求が強かった。ここではこの両者、機能と装飾の併存の中で、服飾デザインがどのような形をとったかを考察しようとした。

方法 主にフランスのデザイナーの作品や服飾に対する考え方、および一般造形活動などから考察した。

結果 機能主義の形態は、結果として女性の人体を円柱状にかなうことと、スカート丈の操作によって形成されたといえる。しかし当時の複雑な造形活動の中において、各デザイナーの作品は一律ではなく、個性的な表現が多くみられる。そしてこれらの作品は一品制作であり、手仕事のであった。